

# 授業改善書

科目名	経済学
担当者	奥山忠信

## 授業の概要

経済学の基本的な理論と今日の主要な課題を講義する。今日の経済学の問題点を理解し、その上で自分で経済問題について考えられるようになることを目標に講義を行う。講義の主題は理論問題と国際経済の概要に置く。ただし、必要に応じて経済の時事問題を講義中に取り上げる。学生が時事的な経済問題に自分の意見を持てるように指導していきたい。

## 授業の問題点

今年は、理論を中心に授業をしたので、学生には難しかったと思われる。分かることが当たり前という環境の中で授業を受けてきた学生にとっては、正解のない授業は、なじめないようだ。しかし一般的には、研究課題は正解がないから行うのであって、授業はその経過報告である。わからないところは各自自分で考えるのが、学問的な精神であり、授業を通して学ぶ精神を伝えることが重要であると考えている。

授業内容が難しい分、いろいろ工夫して理解しやすいように話したつもりである。また、テーマに関連したこぼれ話は、面白いものを選んで行ったつもりである。ギャグにも力を入れたが、まだまだであった。しかし、何回かは笑いを取っている。

## 学生の授業満足度

学生の授業満足度も今年はあまり高くはなかった。やはり、理論に偏りすぎたせいであろう。我々の学生時代には、授業の難しさや分からなさを、大学の授業の誇りとしていたし、分からないから自分も勉強しようと思っていた。ここには意識のギャップがある。しかし、大学教育としては、分からないことを喜ぶ学生を育ててみたい、という気持ちはある。

## 授業改善の課題と方策

3年4年対象の授業では、序業評価はかなり高いので、1年生にとって私の授業がなれないタイプの授業であることが考えられる。

高校までの授業と大学の授業ではスタイルが違うことをよくわかってもらうしかない。とはいえ理論はむずかしいので、授業構成としては、理論以外のものを積極的に入れていきたい。もともと経済学は暗い学問であり、価値論を明るく語っても意味がない。面白いエピソードの中で語るしかない。今後の改善していきたい。

## その他

この2年間、受験者数は増えているが、入学者の授業態度は、悪くなっているような気がする。おしゃべりをするわけではないが、授業中に席を立つ学生、友人の出席カードを代筆する学生が増えてきているように思う。大教室の授業では、これを食い止めようがない。